

# 第1回 大阪乳がん検診研究会 プログラム

開催日：平成15年9月20日(土)

会場：大阪市立大学医学部学舎 4階 大講堂

主催：大阪乳がん検診研究会

共催：関西乳房画像研究会

14:00～ 研究会総合案内 当番世話人 森本 健(大阪市立大学 第2外科)

・開会の挨拶 大阪乳がん検診研究会 代表 古妻 嘉一

・14:10～15:10

『大阪府におけるマンモグラフィ検診の状況』(指定演題)

司会 田口 哲也(大阪大学腫瘍外科)

中島 直(大阪府立成人病センター)

(1)大阪府の自治体におけるマンモグラフィ導入の状況

増田 慎三(国立病院 大阪医療センター 外科)

(2)堺市医師会におけるマンモグラフィ併用検診への動き

松並 展輝(ベルランド総合病院 乳腺外科)

(3)大阪府におけるマンモグラフィに関する調査

本田 育子(大阪大学医学部附属病院 放射線部)

(4)第3回大阪マンモグラフィ講習会における画質評価

藤井 直子(大阪厚生年金病院 放射線室)

・15:20～16:20

『特別講演』

司会 古妻 嘉一(古妻クリニック)

「今後の乳がん検診 かかりつけ医を中心とした展開」

岡崎 邦泰先生(岡山市・くにとみ外科胃腸科医院院長)

(岡山県医師会理事、岡山県成人病検診管理指導者協議会乳癌部会長)

・16:20～17:00

『総合討論』

司会 寺田 央(元大阪警察病院)

畑埜 武彦(関西医科大学男山病院 外科)

パネリスト：増田、松並、本田、藤井、森本、岡崎の各先生

・17:00～17:30

『マンモグラムで発見された乳癌症例展示』

解説 田口 哲也、古妻 嘉一、中島 直

竹川 直哉(大阪厚生年金病院 放射線室)

・閉会の辞

森本 健(当番世話人)

(注)マンモグラム読影は、研究会開始前の13時頃から読影出来るように準備する予定です

## 第1回 大阪マンモグラフィ研究会開催にあたって

大阪乳がん検診研究会 代表 古妻 嘉一（古妻クリニック）

第1回大阪乳がん検診研究会に参加いただき有り難うございます。大阪府での「正しい乳がん検診」をメインテーマに企画致しました。検診に關与する全ての要因が精度管理されていないと、有効な乳がん検診は期待できません。昨今、乳がん検診についての情報が多く見られるようになり、厚労省も自治体にマンモグラフィ併用の義務づけを指導する方針を出しました。このような方針に、迅速にしかも十分に対応するために、私たちに課せられた種々の問題を、一日も早く解決する必要に迫られています。皆様の更なるご協力をお願いいたします。

### 『講演抄録』

#### ・特別講演

#### 「今後の乳がん検診 かかりつけ医を中心とした展開」

岡崎 邦泰 （くにとみ外科胃腸科医院院長、岡山県成人病検診管理指導協議会乳癌部会長）

マンモ併用検診の導入に際しては視触診検診の精度とマンモグラフィの精度の両者が良くないと十分な効果がえられません。また検診の受診率を高めることも重要課題です。

岡山県の視触診乳癌検診は平成12年までは癌の発見率は全国平均よりかなり低い状態で、47都道府県中45～47位でした。そこで岡山県医師会では医師であればだれでも検診できる方式から検診参加の医師は3回の基礎講習を受講した上で検診に参加する方式に変更しました。一部の会員から強い反対が起こりましたが、小谷県医師会長の英断で平成13年からは、これらの医師を中心に検診が行なわれることになりました。その結果癌の発見率は0.13%になり、従来の2～4倍にアツプし全国の上位にランクされるに至りました。特に岡山市ではかかりつけ医の癌発見率（0.17%）が大幅に上がりました。現在、基礎講習会に3回以上参加した医師は649名、1～2回294名、合計943名と多数の医師が参加しています。全国の医師会でこんな例はないと考えます。

マンモ併用検診は平成13年度から岡山県健康づくり財団の車検診が始まりました。2560名検診して10名の癌が発見されています（発見率0.4%）。視触診に比較して早期癌が60%と多く発見されました。一般に精度の良いマンモ併用検診では視触診の約3倍の乳癌が発見されます。

他の2町村では1232名が町立病院で行なわれましたが、癌は発見されていません。

現在、岡山県下の基本検診はかかりつけ医のもとで行なわれ、受診率は40～50%と高率で推移しています。かかりつけ医の視触診の精度は確保できた現在、今後はこの上に精度の良いマンモグラフィを上乗せできれば、岡山県民がより受診し易い乳癌検診が可能となり、受診率のアツプが可能と考えます。

#### ・指定演題

#### 1. 「大阪府におけるマンモグラフィ併用検診導入の現状と今後の課題」

増田慎三\* 古妻嘉一 中谷守一 寺田 央 弥生恵司

大阪乳がん検診研究会、国立病院 大阪医療センター 外科\*

【目的】大阪府下での精度管理できたマンモグラフィ併用検診の推進を目的に、本研究会では平成12年度より、大阪府自治体保健センターを対象にアンケート調査(1)～(5)を施行し、マンモ併用検

診の導入の現況、精度管理の状況、住民啓発、医師会との連携状況などについて調査してきた。その結果と今後の方策を検討する。

【結果】 大阪府 44 自治体を対象としたが、回答拒否：4 自治体。回答率：約 85%。マンモ併用検診に関する内容理解は約半数で不十分。H15 現在、併用検診は 16 自治体で導入されているが、全て行政から検診機関への全面委託で、医師会不参加型。視・触診のみと混在。精度管理も不十分。

精中委活動や、講習会・認定制度（施設・技師・医師）の HP 公開情報などの認知が低い。啓発活動は、定期的な説明会開催が 6 自治体のみで、広報などの文書配布のみが大多数。検診従事の保健師などへの教育も消極的。

【考察】経年的にみると徐々にマンモ併用検診を導入する自治体が増えてきた。しかし、導入にあたり、特に検診率 up に欠かせない地域開業医を中心とする医師会と十分な連携がなく、精度管理も不十分。これら結果から、本研究会は大阪府での「正しい併用検診」の再構築を目指し、マンモ講習会（医師技師同時受講）・研究会・市民講座の実施を企画した。今後、住民 - 医師会 - 行政間のコーディネーター的研究会と認知されるよう努力していきたい。

## 2. 「堺市医師会におけるマンモグラフィ併用検診への動き」

松並展輝（ベルランド総合病院 乳腺外科）

樋上 忍（堺市医師会会長） 能田貞二（同外科医会会長）、小野晃範（同産婦人科医会会長）

大阪府下ではマンモグラフィ併用検診が導入されている自治体は未だに少なく、堺市（人口約 80 万人）においても開始に至ってない。堺市では老健 65 号が通達された直後は、行政および医師会ともに併用検診に対する知識や関心が非常に低い状況であった。そこで、まず地域の勉強会などを通じて開業医に乳腺疾患に対する興味の促進を図り、さらにマンモグラフィ併用の啓発講演等を企画・施行した結果、マンモグラフィ併用に対する知識や関心が徐々に高まってきたことが窺えた。さらに、本年 7 月に当市で「第 3 回大阪マンモグラフィ講習会」（学校法人 物療学園 大阪物療専門学校）が開催され、当医師会からも多く受講し、その結果、医師会内の機運も導入に向け加速されてきていると感じられる。

併用検診を実施するためには、「精度管理されたマンモグラフィ併用検診」が大前提で、医師会と行政の緊密な連携は必須である。有効な併用検診を継続して実施するためには、当市に精度管理委員会を設置し、医師会型のマンモグラフィ検診（同時併用 B）システムを確立し、精度管理の十分に整備された検診を目指したい。

## 3. 「大阪府下におけるマンモグラフィに関する調査（技術部門）」

本田育子（大阪大学医学部附属病院 放射線部）

寺田 央、竹川直哉、中島 直、中谷守一、増田慎三

第 3 回大阪マンモグラフィ講習会開催に先駆けて、大阪府下の乳房撮影装置を保有する施設を対象に、精度管理の現状の調査を行った。回答をいただいた多くの施設で、マンモグラフィ検診精度管理中央委員会認定の講習会をすでに受講済みの医師・技師が在籍するにも関わらず、何らかの事情で精度管理項目の一部あるいは全項目について、ガイドラインにそった方法で行われていない可能性があることが判明した。また、デジタルマンモグラフィを導入している施設が 20%あり、今後、最良のデジタル画像取得および表示方法なども検討していくべきであろうと考える。

## 4. 「第 3 回大阪マンモグラフィ講習会における施設画像評価」

藤井直子（大阪厚生年金病院 放射線室）

竹川直哉 中島 直 本田育子 増田慎三 古川順康 松並展輝 寺田 央 古妻嘉一

平成 15 年 7 月に第 3 回大阪マンモグラフィ講習会が行われた。受講者（医師、技師各 40 名）に、各施設の 3 種類（乳腺散在・不均一高濃度・高濃度 それぞれ両側 MLO）の臨床マンモグラム（以下 MMG）の提出をもとめた。それらに対し、マンモグラフィ検診精度管理中央委員会の施設画像評価の方法にもとづいて、本講習会講師が画像評価を行った。評価データの回収に協力を得られた施設数は 39 施設・41 組の MMG で、41 組中にデジタル MMG（CR のみ）は 6 組あり、他はフィルム/スクリーンによる MMG であった。評価の結果、施設認定の合格ラインである A.B 判定の MMG は 20 施設（21 組）で、他は C.D 判定となった。約半数の施設が、マンモグラフィ併用検診に適する基準を満たさない画像であった。

マンモグラフィ併用乳がん検診の精度を高めるには、精度の高い読影が要求されるとともに、高品質の MMG が必要不可欠である。

今回の評価結果から問題点・改善点について報告する。

#### マンモグラム症例提供にご協力頂いた施設

大阪大学腫瘍外科、国立病院大阪医療センター外科、市立貝塚病院外科、大阪がん予防検診センター

---

### 予告（大阪乳がん検診研究会関連学会、研究会）

#### ・第 14 回日本乳癌検診学会総会（会長 古妻 嘉一 古妻クリニック）

会期：平成 16 年 11 月 1 日（月）2 日（火）3 日（水）検診車によるマンモ検診

会場：大阪国際会議場

テーマ：「検診を支えるマンモグラフィの科学と芸術」（案）

#### ・第 1 回大阪乳がん検診市民公開講座（当番世話人 藤本泰久 大阪市立住吉市民病院）

日時：平成 15 年 11 月 29 日（土）午後 2 時～4 時 参加無料

場所：オスカーホール（オスカードリーム内）地下鉄住之江公園駅すぐ

---

### 大阪乳がん検診研究会 世話人

（事務局：古妻クリニック内）

代表 古妻 嘉一\*（古妻クリニック）

顧問 弥生 恵司（市立貝塚病院）

世話人 寺田 央\*（元大阪警察病院）

古川 順康（市立吹田市民病院）

畑埜 武彦\*（関西医大男山病院）

中谷 守一（大阪市立北市民病院）

森本 健\*（大阪市立大学第 2 外科）

藤本 幹夫\*（市立藤井寺市民病院）

藤本 泰久（大阪市立住吉市民病院）

田口 哲也\*（大阪大学腫瘍外科）

加藤 保之（大阪医療刑務所）

武下 正憲（大阪府立成人病センター）

中島 直\*（大阪府立成人病センター）

増田 慎三（国立病院 大阪医療センター）

平田 俊一（結核予防協会大阪支部）

本田 育子（大阪大学附属病院）

西 敏夫\*（市立貝塚病院）

松並 展輝（ベルランド総合病院）

竹川 直哉\*（大阪厚生年金病院）

相川 隆夫（大阪がん予防検診センター）

（\*印は準備委員）